

## 在宅血液透析（HHD）の患者教育への取り組み

### - 同時期に複数の患者教育を行って -

長崎腎病院

○田賀農恵 佐藤泰崇 林田征俊 久保純子 白井美千代 丸山祐子 船越哲

#### 【背景】

2015年にHHD推進チームを発足し、広報活動に力を入れたことによりHHDを希望する患者数が急増した。今回、同時期に複数の患者指導を施行したので報告する。

#### 【対象】

患者は同時期（同月）のHHD教育となった患者7名（男性5名、女性2名。年齢40～73歳）

#### 【方法】

マンパワーの供給については、HHDチーム以外の透析室・病棟のスタッフを動員し、指導を担当する曜日を分担し、HHD教育を施行した。また患者管理は、HHDチーム内でプライマリーを決め、毎週月曜日にHHDグループ会議を開催し、患者の指導の進捗状況の把握、問題点への対策を立案し、その結果をカンファレンスでHHDチーム外のスタッフと共有した。患者へのHHD教育担当者の育成として、勉強会の充実を行った。

#### 【結果】

同じ時期での複数患者への指導でも、今までのHHD導入までの指導期間と変わらず移行できた。また密な情報の共有を図ることにより、指導者による進捗の差異も押えることが出来た。

#### 【考察】

特定の担当チームによる同じ時期の複数の患者へ指導を行うと、チームメンバーの負担が大きい。今回、各部署での分担と情報の共有によりメンバーの負担を減らし、また、患者の希望に沿った計画を立案して体制を整え、病院全体で取り組むことにより指導が遅延、混乱なく行え、在宅へ移行することが出来たと思われる

#### 【結語】

今回の複数のHHD教育への急な対応を通じて、病院全体で取り組む体制作りの重要性を体験することが出来た。